



山古志木籠

水没家屋を見守るつどい

壊れたふるさとは私たちの根っこです。
根っこから目をそらさなければ強くなれます。

なぜ、水没した家を残したのですか？

山古志は、平成16年10月23日、中越地震に見舞われました。翌日に、ヘリコプターで全村避難し、崩れた山々を見て、ほとんどの人が、二度と山古志には帰って来られないと思いました。50日あまりの避難所生活と約三年の仮設暮らしの中で、私は「山古志へ帰ろう」という思いを日ごとに、強くしていきました。中越地震後、河動閉塞という、地形の変動で、我が家とともに暮らしていた木籠の集落は、水没しました。国からは、家を撤去するように指示されましたが、納得できませんでした。家は、私たちの集落がそこに存在していた証だったからです。

壊れた家を見ているのは辛い！

壊すことは簡単ですが、撤去したら元に戻すことは出来ません。私たちは何度も何度も話し合いをしました。「自分の家が崩れ去っていくところなど見たたくない」と語った人の気持ちも痛いほどに良く分かりました。それでも、地震があったことを忘れないで、伝えていく使命が私たちには、あると感じました。

たくさんの方々に見守られて

中越地震から7年、この水没家屋は、目に見える震災の傷跡として、また復興の象徴として、たくさんの方々に見守られてきました。

その水没家屋も月日の経過とともに、雨風にさらされ、冬の大雪に耐えながらも、少しづつ朽ちてきています。しかし、これが私たちのほんとうのふるさとです。傷ついたふるさとを見つめながら、頑張ってきました。だから、今の私たちがあります。東日本大震災のたくさんの被災者の方々も、この家屋と私たちを見て、負けませんと言つてくれました。

家族を見守るように最後まで

私たちは、最後までこの水没家屋を見守ります。たとえ朽ち果てて、風化しても、大切な家族を見守るように、家屋を見守り続けたいです。この趣旨にご賛同いただける方々に、この集いの一員となって、一緒に見守っていただきたいのです。そして、もしも自然災害が起きてしまったときには、みなさんがつながれる場となることを願っています。

水没家屋を見守るつどい代表

山古志木籠 松井 治二

原発事故から長岡へ ①

南相馬市原町から、長岡市の避難所に入り、その後、長岡市で生活をされている楳洋子さんにお話を伺いました。楳さんは、木籠の賽の神や道普請、闘牛などで、山古志を訪れています。明るくて、一緒にいるとホッとする優しいお人柄ですが、原発事故の後の、様々な出来事に対しては、怒りがこみ上げてきます。

★ ★ ★

3月12日、楳さんの自宅には、津波で家を流された親戚の方が避難してきました。その方たちの引っ越し準備で、ずっと外にいました。「もし、原発が危険な状態だと分かっていたら、外には出ていなかった」と楳さん。市からの放送は、「おにぎりの炊き出しを手伝って下さい」という放送が流れていただけで、原発に関する情報は全く知らされていませんでした。

夕方になり「逃げられる方は避難をしてください」という放送が突然流れました。なぜ避難しなければならないのか、説明はありませんでした。楳さんは作ったばかりのおにぎりを持ち、エプロンをかけたままで、家族や親戚の方たちと一緒に避難するために車に乗り込みましたが、どこに行くあてもありません。息子さんの一言で、西に向かうことになりました。小学校1年のお孫さんは、大人が何も言わないので、ランドセルに1リットルのペットボトルの水を入れて車に乗り込みました。今は、長岡市才津小学校にも慣れて、その時のランドセルを背負って元気に通っていますが、上のお兄ちゃんは、本当は、南相馬のお友だちに会いたくて仕方ないのです。

水没家屋は大震災の語り部



平井 邦彦氏

昭和19年広島県生まれ。専門は都市計画。(財)山の暮らし再生機構理事長

木籠に存置されている水没家屋は、地震による河道閉塞によって土砂と水に埋もれてしまつたが、かつてはここに確かに集落が存在して人々の生活が営まれていたこと、懸命の砂防工事によって大地が再び安定を取り戻したこと、その一画に新しい集落が築かれて人々が元の集落を見守りつつ新しい生活を生み出してきたこと、そして何よりも河川の下流部の安全は上流部の手入れによってこそ守られるものである等々の一連のストーリーを私たちに語りかけてくれている。その意味では中越大震災の最大の語り部の一人いやひとつである。この語り部を可能な限り見守り続けていきたい。

木籠の物語 その一

KOGOMO STORY

「郷見庵」は、今では立派な建物になっていますが、震災直後は、工事現場から譲り受けた、小さなプレハブでした。今、木籠の集落は、高齢者が中心の14世帯で成り立っています。交通の便が良くなり、長岡や小千谷の市街地に30分ほど出られますが、豊かな自然に恵まれている分、冬の雪など厳しい自然と共に存するためには恵を絞り、暮らしてきた歴史があります。

水没家屋を見守るつどい会員募集中！

入会金500円は、水没家屋の様子をお伝えし、広めていく活動費として、大切に使わせていただきます。
振込先：ゆうちょ銀行：9994311 松井治二
※ご住所、お名前前に間違いはありませんでしょうか。
もし間違えていたら、ごめんなさい。訂正しますのでご連絡ください。

水没家屋を見守るつどい

通信発行人 松井治二
新潟県長岡市山古志木籠
電話 FAX 0258-59-2180
編集・発送元気のネットワーク